

表の見方

【学校】

建築物の名称①	建築物の名称②	建築物の位置	建築物の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定等		備考
						内容	実施時期	
〇〇小学校	〇校舎	〇〇町〇丁目〇〇	小学校	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	① Is/Iso=1.1 (0.66/0.6) CTU・SD=0.8			

建築物の耐震診断を実施した時の耐震診断の方法を記入しています。下記の附表一覧をご確認ください。

〇附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価について

耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
	I	II	III
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	Is/Iso < 0.5 又は CTU・SD < 0.15・Z・G・U	左右以外の場合	② 1.0 ≤ Is/Iso かつ 0.3・Z・G・U ≤ CTU・SD

- ③
- I. 大地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。
 - II. 大地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。
 - III. 大地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。

※ 附表の「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性」については、震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模の地震に対しては損傷が生じるおそれは少なく、倒壊するおそれはない。

①「構造耐力上必要な部分の建築物に対する安全性の評価の結果」の数値を附表に照らし合わせてご確認ください。

この場合、結果の Is/Iso=1.1 CTU・SD=0.8を、②附表に照らし合わせると、「1.0 ≤ 1.1 かつ 0.3 ≤ 0.8」となり、区分は「III」になります。

※ Isoは、備考に記載がない場合は0.6になります。
※ Z・G・Uは、備考に記載がない場合は1.0なので、0.3・Z・G・U=0.3になります。

③安全性は、「I」、「II」、「III」に区分されます。内容については、附表の下の注意書き(※)でご確認ください。